

## 2月定例教育委員会会議録

### 1 開催日時

平成25年2月12日（火） 午前10時～11時35分

### 2 場所

鳥取県庁第2庁舎5階 教育委員会会議室

### 3 出席委員

中島諒人、坂本トヨ子、笠見幸子、松本美恵子、横濱純一（教育長）

### 4 欠席委員

若原道昭

### 5 出席事務局職員

教育次長 生田文子、次長 山本仁志、参事監兼高等学校課長 山根孝正、  
教育総務課長 森田靖彦、教育環境課長 前田伸二、  
小中学校課長 山本正史、特別支援教育課課長補佐 田貝隆、  
教育センター所長 坂本修一、家庭・地域教育課長 宮城絵理、  
図書館長 高橋紀子、人権教育課長 岸田康正、文化財課長 上山憲二、  
博物館長 山内有明、スポーツ健康教育課長 吹野英明、  
教育総務課参事 木本美喜、教育総務課参事 片山彦志

### 6 会議

10時、中島委員長が開会を宣言した。

#### （1）日程説明

森田教育総務課長が本日の日程を報告。

#### （2）一般報告

横濱教育長より、全国都道府県教育委員会連合会総会、学校給食の優良学校表彰、境港市教育委員会と西部教育局との意見交換会、原子力発電所防災訓練、江原道教育庁から実務協議団の来県、県立学校長の面談、ケータイ・インターネットを考える高校生フォーラム、鳥取県スポーツ顕彰表彰、倉吉西高校の自転車・弓道選手の表敬訪問、鳥取県教育研究大会等の活動について報告があった。

### (3) 議事

#### ・議案第1号 平成25年度鳥取県公立小・中・特別支援学校学級編制基準について

山本小中学校課長から、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律並びに公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律の規定に基づく平成25年度の鳥取県公立小・中・特別支援学校の学級編制基準について、昨年同様に、本県独自の少人数学級や複式学級の取扱い等を継続して実施していく旨の説明があった。

次いで審議が行われ、中島委員長、笠見委員より少人数学級の取扱いや学級編制の市町村からの届出状況等について質問があり、山本小中学校課長から現状について説明があった後、議案第1号は原案どおり可決された。

#### ・議案第2号 文化財の県指定について

上山文化財課長より、保護文化財4件についての説明があった。

1件目は、鳥取市南部猪子川の谷間にある奥田家住宅について、主屋・離れ・蔵・茶室等8棟を指定するものであり、奥田家住宅は江戸時代末期の上層農家の住宅形式をよく伝えるもので、歴史的価値が高いこと、また全国の銘木や神代杉をあちこちに使用しており、意匠的に優れた県内を代表する近代的和風建築である旨説明があった。

2件目は、鳥取ゆかりの絵師片山楊谷が描いた菊慈童・花鳥図について、片山楊谷は長崎に生まれ、中国から伝わった新しい中国絵画の技法を習得して諸国を遍歴し、その遍歴の途中で鳥取藩西館に仕える茶道家片山宗把の養子となり、菊慈童・花鳥図については、菊慈童を中幅に、両脇に菊と小鳥を描く花鳥図をそえるもので、楊谷の菊慈童図の中でも傑作ではないかと言われている作品である旨の説明があった。

3件目は、片山楊谷の竹虎図屏風について、6曲1双で、剛毛の集積で虎の体躯が描かれており、楊谷の20代の作品と言われて、江戸時代後期の画壇の中ではユニークな作品として注目されている旨の説明があった。

4件目は、同じく片山楊谷の龍虎図屏風について、6曲1双の総銀地屏風で右隻に虎、左隻に龍が描かれており、毛描きが墨の濃淡だけで描かれている楊谷晩年の傑作である旨の説明があった。

次いで審議が行われ、坂本委員、笠見委員から県の保護文化財に指定され

た後の文化財の取扱いや、現在の指定の状況等について質問があり、上山文化財課長から指定文化財の取扱い、現状等について説明があった後、議案第2号は原案どおり可決された。

#### [非公開]

##### ・議案第3号 鳥取県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について

人事に関する案件のため、非公開と決定された。

上山文化財課長より、鳥取県銃砲刀剣類登録審査委員の任用について、再任とする旨の説明があった。

次いで審議が行われ、議案第3号は原案どおり可決された。

#### (4) 報告事項

##### ・報告事項ア 平成25年度県立琴の浦高等特別支援学校の入学者選抜の実施結果について

田貝特別支援教育課課長補佐より、昨年12月10日、11日に行われた平成25年度県立琴の浦高等特別支援学校の入学者選抜試験の実施結果についての説明があった。定員40名のところ志願者が39名、受験者が38名、再募集を行ったが志願者はなく、最終的に受験者38名、合格者が38名であった。また定員に満たなかった理由としては、通学に対する不安や、まだ学校ができていないことで様子がわからない不安等があったようである旨の説明があった。

次いで質疑応答が行われ、中島委員長、笠見委員から定員に満たなかったことについての詳しい分析や来年度の対策について、意見が出され、今後、調査検討し、来年度の試験に向けて対策を練っていく旨の説明があった。

##### ・報告事項イ 平成25年度県立高等学校教育課程について

山根参事監兼高等学校課長より、平成25年度県立高等学校教育課程について、普通高校ではほとんどが45分授業を行っていることや専門学科の高校では進路希望に応じて多様な選択科目を設置していること、総合学科では、1校あたり平均24の学校設定科目が開設されていること及び定時制課程、通信課程での特徴的な単位認定などについて説明があった。

次いで質疑応答が行われ、中島委員長、笠見委員から具体的な単位取得

方法やキャリア教育の現状等について質問があり、山根参事監兼高等学校課長から現状等について説明があった。

#### ・報告事項ウ 平成24年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

山根参事監兼高等学校課長より、2月7日に倉吉未来中心で開催された平成24年度鳥取県教育研究大会の開催概要について、授業力の向上、児童生徒の学びの質を高める取組の推進のため、講演、パネルディスカッション、実践発表を行った旨の説明があった。参加者は292名で、「『hyper-QU』を活用した児童生徒理解と居場所づくり、仲間づくり」について及び「生徒の見取りを中心とした研修の推進」について実践発表が行われ、「校種の違う実践を聞き授業が改善し、変わってきているのを感じた」、「研究大会の内容が自らの実践に結びつくことが多く、大変参考になった」などの感想が紹介された。

次いで質疑応答が行われ、笠見委員から研究大会の参加対象者をもっと広げてはどうか等の意見が出された。

・報告事項エ～セについては、資料配布のみとし説明は省略することとなった。

#### ・その他

その他として、中島委員長、松本委員、笠見委員から次のとおり意見があり、担当課で検討することになった。

- (1) 鳥取西高校でコミュニケーション教育（戯曲を書く授業）に参加したが、大変良かった。言語力を育成する上でコミュニケーション能力の向上は大切なことであり、例えば、モデル校を作って実施するなど、このような取組をもっと広げてはどうか。
- (2) 教員が何か改善したいと思ったときに、その内容を提案できる仕組みが作れないだろうか。提案が実現できるかどうかは別にして、教員のモチベーションが上がるように、声をきくことが必要ではないか。

中島委員長が閉会を宣言し、2月定例教育委員会を閉会した。